



Title	ソーシャルメディア衛星開発プロジェクトSOMESATの質問紙調査
Author(s)	渡辺, 謙仁
Relation	日本天文学会2011年秋季年会. 2011年9月19日-22日. 鹿児島大学.
Issue Date	2011-09-19
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/48980
Type	conference presentation
File Information	asj201109.pdf



ソーシャルメディア衛星開発プロジェクトSOMESATの質問紙調査

渡辺謙仁(北海道大学)
t_watanabe@ec.hokudai.ac.jp

日本天文学会2011年秋季年会(2011年9月19日~22日@鹿児島大学)

概要

現在進行中のソーシャルメディア上で展開する宇宙を題材とした興味深い協働学習の例として、「ソーシャルメディア衛星開発プロジェクトSOMESAT(サムサット)」が挙げられる。動画共有サイトなどのソーシャルメディアにおいては、異なるカテゴリのクリエイターたちの相互作用によってコンテンツが生成されることがあるが、SOMESATのプロジェクトは、特定の研究機関や大学、企業などによってではなく、また仕事や学問などではなく、主にインターネット上で知り合った、異なるカテゴリの技術者や事務担当者たちの相互作用、つまりソーシャルメディア的な手法によって進められている。現在でもSOMESATには原則的に誰でも参加できる。つまりSOMESATとは、ソーシャルメディアによる、ソーシャルメディアとしての衛星開発プロジェクトである。

著者によるこれまでの参与観察から、SOMESATのメンバーが持つ関心(宇宙・自主工作・キャラクターなど)やニーズ、共同体に対する意識が、メンバーのSOMESATへの参加を決定付けると考えられた。SOMESATはインターネット上で集まったメンバーによる実践であることもあり、参加を決定付けるそれらの有様は様々であると考えられる。本研究では質問紙調査によってそれらを中心に調査し、SOMESATとは何かを大まかに捉え、結果を実践に活かすことを目指した。

はじめに

SOMESAT(サムサット)とは何か?1)

- ソーシャルメディアで集まった人達で超小型衛星を開発し、打ち上げる
- ニコニコ技術部²⁾が発祥
- 初音ミク³⁾などのキャラクターを搭載し、宇宙でパフォーマンスをさせる
- ソーシャルメディアと連動したミッション
- 社会の反応を調べる
- 宇宙を身近にすることを狙う



- 1) ニコニコ技術部Wiki「ソーシャルメディア衛星開発プロジェクトSOMESAT」
<http://j.nicotech.jp/somesat> (2011年9月12日アクセス)
- 2) 部員を自負する者は、自主工作の様子を撮影した動画をニコニコ動画に投稿したり、「つくってみた」ものをオフラインのイベントで披露しあったりする。組織や入部資格があるわけではない。
- 3) ユーザーがメロディと歌詞を入力すると、内蔵音声による歌を作成できるソフトウェア、およびその擬人化キャラクターである「ボーカロイド」の一つ。動画共有サイトなどのソーシャルメディアにおいて、無数の初音ミクの歌が共有され、そのキャラクター性が育てられており、ファンからはソーシャルメディアの象徴として見なされていると考えられる。

SOMESATには何人が「参加」しているのか?4)

本研究でいう「メンバー」はこのあたり



- 毎週のチャット会議の出席者数: 約20人
- チャット会議で自己紹介をした人の数: 63人⁵⁾
- ニコニコ動画のコミュニティ「SOMESAT情報局」の参加者数: 518人⁶⁾
- SOMESAT_PV DVDの購入者数: 1000人⁷⁾
- SOMESAT_PVのニコニコ動画でのマイリスト数: 19471人⁸⁾

- 4) 必ずしも階層構造になっているわけではない。
- 5) SOMESAT IRCニックネーム一覧 <http://www.interq.or.jp/earth/geoark/somedas/menlist.html> (2011年9月12日アクセス)
- 6) <http://com.nicovideo.jp/community/co86782> (2011年9月12日アクセス)
- 7) 製造された1000枚が売り切れた。この他にも購入希望者は存在するし、DVDを複数購入した者もいると考えられる。
- 8) ussy(2010)【第5回MMD杯本選】ちょっと宇宙行ってくる！SOMESAT PV。ニコニコ動画 <http://www.nicovideo.jp/watch/1282384008> (2011年9月12日アクセス)

目的

- SOMESATにおける、プロジェクトへの参加の度合いを深めていく過程としての学習がどのようなものが調べる
- 著者は、ある種の社会実験・研究としてのSOMESATを参与観察などにより研究する(研究の研究)
- 本研究の範囲: これまでの参与観察で、参加の有様を決定付けると思われた、参加者の関心やニーズ、共同体に対する意識を中心に、SOMESATを大まかに捉える

方法

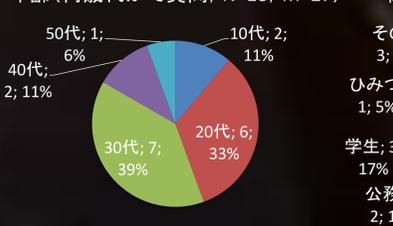
- 対象: SOMESATのメンバーのうち、オフラインイベントの参加者 N=18
- 技法:
 - 5件法(「全くそう思わない(1点)」から「非常にそう思う(5点)」まで)
 - 自由記述法 など
 - 項目数: 36項目(本研究では一部の結果を示す)
 - 日付・場所: (震災前)
 - SOMESAT関西勉強会(2011年2月6日@大阪コロナホテル) N=16
 - 同人誌即売会「ニコック」(2011年2月12日@東京流通センター) N=2

結果

人口統計的変数

性別: 全員男性(N=18)

年齢(何歳代かで質問, N=18, M=27)

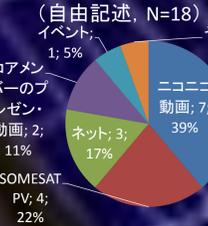


職業(自由記述, N=18)

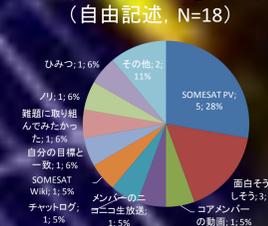


参加の経緯など

どこで(誰から)知ったか(自由記述, N=18)



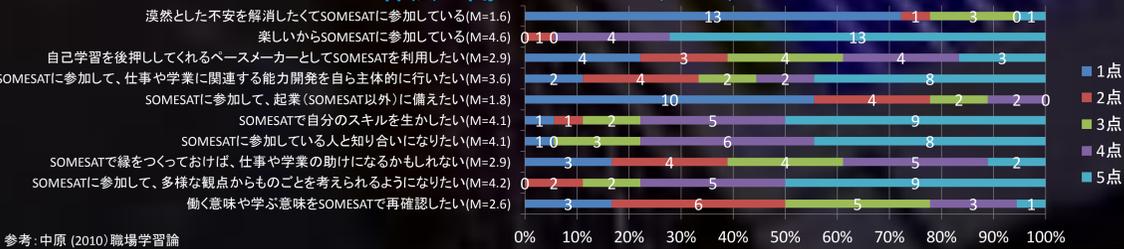
参加を決めたきっかけ(自由記述, N=18)



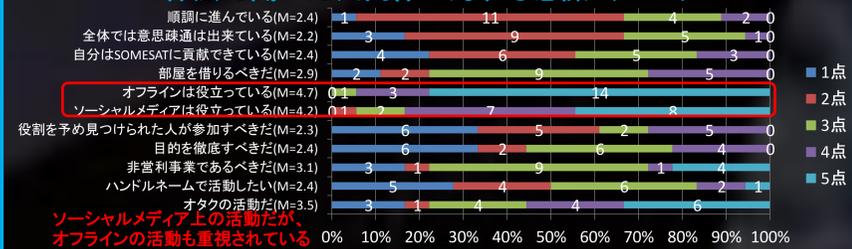
特に興味を持つもの1位から3位(回答した人数の加重平均, N=18)



5件法で聞いたニーズ(N=18)



5件法で聞いた共同体に対する意識(N=18)



ニーズの探索的因子分析・因子間相関係数の結果(N=18)

	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
1. 働く意味や学ぶ意味をSOMESATで再確認したい	0.94	0.03	0.02	0.90
8. 自己学習を後押ししてくれるペースメーカーとしてSOMESATを利用したい	0.84	0.11	-0.12	0.72
6. SOMESATに参加して、起業(SOMESAT以外)に備えたい	0.82	-0.13	-0.12	0.57
10. 漠然とした不安を解消したくてSOMESATに参加している	0.64	0.22	-0.07	0.53
7. SOMESATに参加して、仕事や学業に関連する能力開発を自主的に行いたい	0.51	-0.34	0.35	0.43
4. SOMESATに参加している人と知り合いになりたい	0.08	0.97	-0.01	1.00
5. SOMESATで自分のスキルを生かしたい	-0.09	0.70	0.07	0.48
3. SOMESATで縁をつくっておけば、仕事や学業の助けになるかもしれない	0.05	0.20	0.91	1.00
9. 楽しいからSOMESATに参加している	0.21	0.04	-0.55	0.26
固有値	3.81	1.68	1.26	
寄与率	28.80	25.38	11.33	

因子間相関係数	第1因子	第2因子	第3因子
第1因子	—		
第2因子	0.35	—	
第3因子	0.32	0.26	—

因子抽出法: 最尤法
回転法: Kaiser の正規化を伴うロマックス法

自由記述欄

- 同じような回答 → まとめて人数を記述
- まとめられなかった回答 → 「」内にそのまま記述

- Q. あなたが考えるSOMESATの目的とは何ですか?
- A.
- 宇宙でネギ振り: 3人
 - 「アマチュアによる宇宙開発を通した宇宙開発振興」
 - 「非営利であるが人と協力して一つの難移度の高い事柄にchallengeし、達成感を得る。」
 - 「みんなのアイデアを集約し、現実にするところ」
 - 「一部の人間の道楽ではなく、多数の一般の人間の力を結集して目標を達成する、東大寺の大仏の事業」
 - 「真面目に不真面目な事をやる。」
 - 「趣味で高度な技術開発/組織運営を行い「遊ぶ」事」
 - 「宇宙を身近なものにすること」
- Q. ネットベースの活動である利点・欠点は何ですか?
- A. (利点)
- 様々な境界(時間・空間・年齢・職・収入など)を越えて人と交われる: 13人
 - 「自由意志での参加」
 - 「新規の参加者が入る可能性」
 - 「『未知のエリア』にチャレンジできること」
- A. (欠点)
- ミスコミュニケーションが起こりやすい: 8人
 - 意志決定が遅い: 5人
 - 責任が不明確、実体が(まだ)ないことに寄る信頼の無さ: 2人
 - 物理的な開発の困難、開発の分散: 2人
 - 「全体としてのまとまりが薄いかも」
 - 「メンバー間のオフのすりあわせが困難」
- この質問の答えからも、「個人的志向」とともに、「社会的協働」に関するニーズが見て取れる

まとめと今後の課題

SOMESATは共同体として、主に30代以下の若年層が、相対的には天文よりも宇宙機に大きな関心を持ち、ソーシャルメディア上の活動とともにオフラインの活動も重視している実践であると言える。ニーズに関する観測変数からは、探索的因子分析を試みた結果、「個人的志向」、「社会的協働」、「功利的人脈」の3因子が抽出された。現在のメンバーが持つニーズが垣間見えたので、これらの結果を、メンバーの満足度やモチベーション形成力を向上させ、メンバーの離脱を防いだり、より活動を活性化したりすることなどの内的コミュニケーションに活用することが出来るだろう。また、未だSOMESATに参加していない潜在的なメンバーも、本研究で垣間見えたニーズと近いニーズを持っている可能性がある。よって、新たに人材を募集する際のアピールポイントの設定などの外的コミュニケーションにも応用出来ると思われる。

また、今回の結果には表れなかったが、SOMESATのメンバーによる語りなどは、彼らは世間一般人よりは天文に関心を持っていると思わせる。「社会的協働」に関するニーズを持っていることと併せて考えると、SOMESATは天文普及に貢献する活動になるかもしれない。

本研究で行った質問紙調査は、「対象者がオフラインのイベントに参加したメンバーに限られること」、「社会に大きな衝撃を与えた東日本大震災の前に行った調査のため、現在のメンバーのメンタリティとは異なったものを捉えている可能性があること」、「限られた質問項目による単発の質問紙調査のため、著者の自説の投影テストになってしまっている可能性があること」といった問題点がある。新たにオンラインの質問紙調査を行って対象者を広げ、本研究の結果と比較したり、継続的な参与観察やインタビューなどで、質的に充実したデータの収集と分析を行ったりする必要があるだろう。